



井上 道義の 未来だった今より

ヨーロッパ人、アメリカ人、南米人たちと仕事をする人が多い。クラシック音楽業なのだから当然なのだが、彼らの体のつくりとスタミナにはいつも驚かされる。冬用にできているとしか思えない！ フランスというラテン系でさえそう感じるので、北欧、ロシア系だともう本当に熊！ それも冬眠をしないデブ熊！

先日、フランスのナント（ラフォールジュルネの発祥地）の報告を書いたが、以前は大都市のようにオペラ、バレエ、ミュージカル、演劇がほとんどなかった小都市でこそ、あの音楽祭は成功することができたと聞かされた。

10カ所ほどのホールは立錫の余地もない日が4日間続く。最近では12万人の動員だそうだが、来るお客さんの大半は近郊の定年を過ぎた、冬眠れない夜が長い？夫婦。そして引率されてハレの日気分の小学生たちも大勢。彼ら

♪
体力？
？
気力？
？

は零下8度をもものともせずコンサートで大きく拍手をして当然ビールやワインを飲んで（子どもはお水だけ）帰っていく。彼らは多少コンサートが遅れて始まって怒らないし、ソリストが代わっても文句一つ言わない。主催者を信じているのか、鷹揚なのか、どうでもいいのか……。

大雪だった僕の復路でそんな彼らの気質が目に出た。作業員が遅れて出勤したとか、融雪機械の能力の「想定外」のドカ雪？（7センチなのに）だとかの理由で、翼の雪下ろし作業が遅れて遅れ滑走路上で3時間半待たされ、当然乗り継ぎ便には間に合わず、帰国は10時間遅れ。鷹揚な乗客の中でほんとに腹が立っていたのは僕ぐらい。こんな僕もどうやら日本人らしい。デブ熊じゃないし。

（オーケストラ・アンサンブル金沢）
音楽監督

国で、国内では事実上禁止されている技術を利用する不妊カッブルがいた。だが近年、アジアの新興国で第三者生殖技術を利用する人々が増えている。インド、タイ、マレーシアなどは、外貨獲得のため医療ツーリズムに力を入れており、海外からの患者を積極的に受け入れ

生殖医療